

## 「多賀城スコール」(宮城県多賀城市)

### 取組の概要や経緯

震災をきっかけとして、不登校や不登校傾向の子どもが増加傾向にあり、その背景には家庭環境など様々な要因が複雑に絡みあっているが、学習意欲の低下につながっている。そのため、子供の学習意欲を向上させる取り組みを、地域・家庭・学校で連携する仕組みが必要である。

### 内容

地域の地区公民館において、小中学校の自主学習の取り組みを支援する事業「多賀城スコール」を行った。夏季休業に3日間、冬季休業に2日間の計5日間開催し、東北学院大学の大学生ボランティアに子どもたちの学習の支援、見守り、時には話し相手として子供たちを支援してもらい、最寄りの地区公民館において実施した。

サマースコールは、小中学生延べ223名、学生ボランティア43名、ウィンタースコールでは小中学生延べ100名、学生ボランティア28名が参加し、このスコールを通じて学習意欲が向上した児童生徒が多かった。

### ポイント

- ①地域の公民館で実施
- ②大学生ボランティアの協力
- ③子どもたちの自主学習への意欲を支援する取り組み

### 成果

・スコールに参加した小中学生にとってアンケートでは、サマースコールでは、主体的に学習に取り組めた児童生徒の割合は、小学生94.9%、中学生は88.2%、小中合わせると91.5%であり、サマースコールを通じて自分から勉強しようという気持ちになった児童生徒が多かった。また、安心して学習に取り組めた児童生徒の割合は、小学生98.3%、中学生100%であり、小学生中学生とも集中して学習に取り組むことができたと評価できる。

・ウィンタースコールでは、主体的に学習に取り組めた児童生徒の割合は、小学生97.7%、中学生100%で、ウィンタースクールを通じて自分から勉強しようとする気持ちになるなど、前向きな意見が見られたため、効果的な取り組みであったと評価している。また、安心して学習に取り組めた児童生徒の割合は、小学生95.3%、中学生100%で、小中学生とも集中して学習に取り組むことができた。

### 今後の方向性

地域に根差した活動としていくため、大学生ボランティアだけでなく地域住民のボランティアを積極的に活用していく。

・コミュニティスクール事業の目玉として継続して実施していく

# 「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

## 3つの「学び塾」で学校と家庭・地域が連携(宮城県丸森町)

### 取組の概要や経緯

- ①児童や生徒の自学自習及び家庭学習の習慣を形成するための支援を行い、基礎・基本の定着と学力の向上を目指した。
- ②放課後や長期休業、週末において、支援員との関わりをとおして学ぶ意欲を補完する場や居場所になるよう小中学校で「放課後学び塾」「夏休み学び塾」、週末には「土曜学び塾」を設定した。



### 内容

- ①町内小中学校と学び支援コーディネーターが連携して「放課後学び塾」「夏休み学び塾」を企画・運営をする。
- ②「土曜学び塾」では、希望で3コースから選択させ、支援員による個別指導や全体活動として「民話の読み聞かせ」や「脳トレ」等を実施したり、各種検定受験をすすめ目標を設定させることで学習意欲の向上を図る。



### ポイント

- ①放課後学び塾では、授業だけでは定着が難しい子供への対応を工夫した。受験期の中学3年生を対象にして落ち着いた学習環境を提供した。
- ②夏休み学び塾では、学力向上や補充を目指しつつ、心の居場所づくりとしても機能させた。
- ③土曜学び塾では、算数・英語・苦手とっばの3コースを設定し選択、前・後期でコース変更を認めたり、ふるさと学習などの体験活動を取り入れたりして学ぶ意欲の向上を図った。



### 成果

#### <放課後学び塾>

- ・主体的に学習をすすめる習慣形成や心の安定に寄与することができた。

#### <夏休み学び塾>

- ・休業中の学習習慣の維持・確立と学力の補充ができた。
- ・受験期の中学3年生に学習の場を提供し学力の向上を図ることができた。

#### <土曜学び塾>

- ・コース選択や前後期で変更を認めたことで主体的な学習がすすめられた。
- ・各種検定(英検・算検・漢検)受験をとおして目標を設定することができた。

### 今後の方向性

- ・学びの習慣化に向け、子供自身の変容を期待しながら、地域の人々との関わりを深めるための活動を工夫する。
- ・学ぶ意欲づくりのためにふるさと学習等の体験学習を工夫する。
- ・地域ボランティアの発掘と連携をすすめる。